

“仕舞う収納”から“毎日使う収納”へ 新発想の扉裏収納『コレココ』を共同開発 新築賃貸マンション「クレヴィアリグゼ表参道」に初導入

伊藤忠都市開発株式会社(東京都港区、代表取締役社長:寺坂晴男)は、株式会社娛住創(東京都日野市、代表取締役社長:清水勝)及び株式会社翔洋(東京都港区、代表取締役社長:佐野経明)との協働により、クローゼットの扉の裏面を活用した新発想の小物収納システム『コレココ』を共同開発し、今秋から募集開始した賃貸マンション「クレヴィアリグゼ表参道」に初導入しましたのでお知らせ致します。

『コレココ』開発の背景

単身者向けの賃貸マンションはワンルームタイプが主流ですが、ワンルームは住戸面積が小さいため収納も少なく、収納の内部はハンガーパイプもしくは棚板のみで、小物類を整理するための工夫は施していないのが一般的です。このため、「小物類がつい散らかって部屋が片付かない」「必要な時にすぐ見つからずイライラする」というストレスを入居者は潜在的に感じており、弊社ら3社は協業してこの課題を解決する新しい価値の創造に取り組みました。

『コレココ』とは

日常生活で室内が散らかりやすい小物類は個人差により様々ですが、大別すると以下の4つに整理されます。

- ①ポケット等に携行する小物 : 鍵、財布、定期券、手帳、ハンカチ、ティッシュ、口臭予防剤、目薬 など
- ②ほぼ毎日身に付ける小物 : ネクタイ、ベルト、靴下、腕時計、アクセサリ、メガネ、帽子 など
- ③たまに室内で使う小物 : つめきり、体温計、印鑑、ホッチキス、洋服ブラシ、スプレー消臭剤 など
- ④失くすと困る書類や郵便物 : 公共料金等の納付書、資格試験の受験票、結婚披露宴の招待状 など

これらの小物類の「指定席」となるポケットやフックを、クローゼットの扉裏に最適に設置したのが、『コレココ』です。飲み物や鶏卵、調味料などが出し入れしやすい冷蔵庫の扉裏ポケットからヒントを得て、収納に対する設計概念を従来の『仕舞う収納』から『毎日使う収納』へ転換し、生活者の目線で開発した新発想の小物収納システムです。

目指したのは「豊かな時間」と「暮らしやすさ」

毎日の使い勝手を最も重視し、モノのサイズに徹底してこだわりポケットの幅・深さ・間隔を5mm単位で試作を重ね、最適化を追求しました。また、ベルトが扉の開閉時にばたつかないストッパーや収納全体を見渡せる170度に開く扉を採用、一般財団法人建材試験センターで10万回の開閉試験(18kg荷重時)を行い耐久性を確認するなど、入居者の日々の生活シーンや様々な使用場面を想像して作り込みました。

今までの「アレはドコ？」から「コレはココ！」が習慣になることで、片付けやすくモノを探す無駄な時間が減り、朝の身仕度もスムーズで時間にゆとりが生まれ、ストレスが少なく便利で快適に暮らして頂けるものと確信しています。弊社は今後も異業種との協業等により、豊かな暮らしを提供する新たな生活価値の創造を目指して参ります。



モノの居場所を検討

普段出し入れしないアルバム等の思い出の品は、棚の奥に専用スペースを。



毎日使うハンカチやティッシュ、くつ下は見やすく取り出しやすいゴールデンゾーンに。

帽子掛けにも配慮。毎日使わないので、高い位置でキレイに保管。



高さの違う左側のハンガーは、手前に長い洋服をかけておくために。

高さ18cmの消臭剤ファブリーズも、整理整頓。

大切なのに忘れがちな請求書や招待状も、専用ポケットに。



ネクタイラックの上には身長に配慮し縦長にしたミラーを設置。忙しい朝でもサッと身だしなみをチェック。

開発時のこだわり

寸法

よく使う小物はパツと取れる胸の位置に。



ポケットの取付け位置は、使いやすさの観点から検証

それぞれのポケットの大きさも考慮して位置を調整。



ハンカチ類は倒れないように深めに設定。

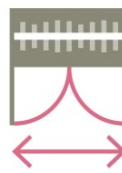
小物用は浅くして、見やすく取り出しやすく。

ポケットの奥行や高さは入れるモノに応じて5mm単位で調整

使いやすさ

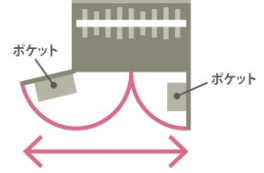
■概念図

【従来の収納】



【「コレココ」】

収納棚



入れる「モノ」の高さを考慮して、ポケットの間隔を決定。

扉は170度開くので、着替えも支度も楽々のスペース。



開閉時はたつく長いベルトには専用のストッパー。